

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和3年10月)

～緊急事態宣言の解除で現状判断は大幅な上昇～

- 景気ウォッチャー調査・10月調査の近畿地域の結果は、現状判断が52.3と前月比で2か月連続の上昇となった。前月からは10.3ポイントの大幅な上昇。一方、先行き判断も55.0と2か月連続の上昇となっている。
- 足元の景気については、9月末に緊急事態宣言が解除され、外食などを中心に需要の回復が進んでいる。都市部での人流の増加により、百貨店やコンビニにも一定の追い風が吹く形となった。ただし、消費全体は力強さを欠いており、緊急事態宣言の解除による影響も期待を下回ったとの声もある。新型コロナの感染拡大への不安が残る中、外出の自粛も続いている状態であり、本格回復が始まるまでには時間がかかりそうである。
- その一方、外食の需要回復により、スーパーなどでは食料品の販売の減少がみられるほか、家電や家具、生活雑貨を中心とした巣籠り消費にも、やや一巡感が広がりつつある。
- 先行きについては、いわゆる感染第6波への懸念も強く、消費の本格回復には時間がかかるとの声が少なくない。ただし、緊急事態宣言の解除後は感染が落ち着いた状態が続いており、ワクチン接種率も上昇していることから、クリスマスを含む年末年始商戦への期待は大きい。
- その一方、半導体不足による生産活動への悪影響のほか、資源相場の高騰などによる、各種コストの上昇もあり、収益面への悪影響を懸念する声が増えている。特に、仕入価格が上昇する中で、販売価格への転嫁が難しいとの声は多く、今後の新たなリスクとして景気への悪影響が懸念される。

「緊急事態宣言の解除」関連のコメント(現状判断・家計)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(マネージャー)	・新型コロナウイルスの影響が小康状態になるなか、緊急事態宣言の解除や気温の変化もあり、中間層の客が大きく動き出してきた。行動範囲の拡大により、婦人服のボリュームゾーンや婦人雑貨が2年ぶりに良い動きとなり、それとの買い回りの効果で、菓子類や総菜も好調な動きとなった。また、富裕層向けの特選品や海外の高額衣類、宝飾関係も堅調に推移している。
		百貨店(服飾品担当)	・緊急事態宣言の解除が9月末に報道されてから、徐々に客足は戻り始め、前年の今の時期と変わらない入店客数となっている。都心店舗、郊外店舗共に、売上も前年を上回っている。都心店舗はラグジュアリー関連がけん引し、郊外店舗はフード関連がけん引する構造となっている。客からはワクチン接種が終わり、ようやく自由に買物ができる安心感が出てきたという声が多い。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少とともに、今後は更に来客数が増える。
		観光型旅館(経営者)	・緊急事態宣言の解除で人流が増加し、観光地にも人が訪れるようになってきた。さらに、当県では旅行に地域クーポンが利用できるため、景気の回復に寄与している。
		競輪場(職員)	・緊急事態宣言が解除されて上昇したのか、3か月前の客単価は1万1450円であったが、今月は1万2685円となっている。
	やや良くなっている	一般小売店「花」(経営者)	・緊急事態宣言の解除により、徐々に得意先からの発注が増えている。
百貨店(売場主任)		・緊急事態宣言が完全に解除となった。30日までの来客数は、前年比で3.1%減少とやや少ないが、土日の入店を含め、月末にかけて急速に回復してきた印象を受ける。この状態が継続できれば、年末にかけて本格的な景気回復につながる。	
百貨店(サービス担当)		・今月から緊急事態宣言が解除され、来客数は増加傾向にある。食品フロアでの店舗のリニューアルオープンもあり、売上は前年の実績を確保できそうである。また、自宅で正月を過ごす傾向が続いているため、おせち料理の予約状況も好調に推移している。	

家計動向関連

やや良くなっている

百貨店（売場マネージャー）	・緊急事態宣言が解除され、全国的に新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向にあるなか、来客数が明らかに増加している。ようやく外出できるようになったという客もみられ、消費意欲の上昇がうかがえる。
百貨店（特選品担当）	・3か月前は緊急事態宣言の発出中であったが、10月に入って解除された。新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、来客数は明らかに増加している。
百貨店（マネージャー）	・月後半に入って、緊急事態宣言の解除後の移行期間が終了し、来客数や売上などが前年を超えるレベルに回復してきた。ただし、コロナ禍前のにぎわいには程遠く、購買も本当に必要な物に限るなど、堅実な様子が見られる。
百貨店（宣伝担当）	・ようやく緊急事態宣言が解除され、月末には時短要請も全面解除となったことで、客足がかなり戻ってきた。飲食店の営業時間が長くなり、特に平日の夕方以降は、会社帰りの人が増えている。
スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除で外食が増えたのか、来客数は維持しているものの、客単価は下がっている。その分外食が増えていると推測され、周囲の飲食店も営業が活発になってきている。
コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言の解除で、近くの飲食店やビジネススクールなどの営業が解禁となり、日中の人通りも戻ってきた。来客数は昼間が3か月前と比べて7%、夜間は25%ほど増加している。
コンビニ（経営者）	・居酒屋への時短要請が解除になったため、客が少し動き出したと感じる。
コンビニ（店長）	・緊急事態宣言の解除でやや良くなっている。
衣料品専門店（店長）	・10月初旬は若干の持ち直しにとどまったが、その後の飲食店への各種制限が解除されたタイミングに合わせて、当店の来客数も前々年並みに持ち直している。
家電量販店（店員）	・緊急事態制限の解除、時短営業の解除によって人が動き出す。年末にかけてボーナスが支給され、購買意欲も上がるため、来客数に動きが出てくる。
家電量販店（企画担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、来客数が回復してきた。特に、電気料金の値上げに伴い、暖房対策として省エネタイプのエアコンの販売量が伸びている。
家電量販店（人事担当）	・緊急事態宣言の解除により、外出に意識が向かうようになり、販売量が少しずつ伸びている。また、気温が急に下がったことで、電気ストーブやファンヒーターなどの暖房器具の売行きが良くなっている。
乗用車販売店（経営者）	・緊急事態宣言が解除となり、少しずつ消費が戻ってきたように感じる。
一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除される前から、深夜の営業を続けてきた店舗は、今も全く影響なく客が入っている。一方、自治体の要請を守っている店舗は、まだまだ元に戻っていないが、20日からはキャッシュレス決済のポイント還元が始まり、昼間はその効果で若い客などの来店が増えている。
観光型旅館（経営者）	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、予約は非常によく動いている。
都市型ホテル（管理担当）	・緊急事態宣言が解除されて、来客数が増えてきている。
都市型ホテル（フロント）	・緊急事態宣言の解除もあり、ビジネス関連の需要回復が著しい。ただし、レジャー利用の回復はまだまでであり、今後のGo To Travelキャンペーンの再開に期待している。
都市型ホテル（総務担当）	・緊急事態宣言の解除に続き、飲食店への一部の規制は残るものの、徐々に緩和されていることで、これまでに比べて来客数が大きく増えている。今後、自治体による観光推進策の実施で、更なる利用が期待される。
都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、緊急事態宣言の解除により、宿泊の予約が徐々に増加しつつある。レストランもアルコール類の提供が可能となり、ディナータイムの売上がやや増加しつつある。
都市型ホテル（販売促進担当）	・緊急事態宣言が解除になり、今月は宿泊の稼働率が20%台から40%台に回復した。ただし、一気に上昇したわけではなく、様子見のなところもある。レストランは緊急事態宣言の解除とともにディナーを再開したが、動きは余り増えていない。一方、ランチは土日の来客数は少ないものの、平日は1日の平均来客数が前月よりも115%増加している。
都市型ホテル（客室担当）	・緊急事態宣言の解除により、来客数が増えつつある。秋の紅葉シーズン到来に向け、京都の観光需要は週末を中心に回復してきている。
旅行代理店（店長）	・緊急事態宣言の解除や、飲食店での時短営業の緩和、旅行の県民割の開始もあり、来客数が増えている。
タクシー運転手	・緊急事態宣言が解除となり、10月からは客の間に安心感が広がっているが、まだ恐怖感があるのか、夜の飲食の客は少ない。
テーマパーク（職員）	・緊急事態宣言が解除されたことで、観光客の動きも回復しつつある。
その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・緊急事態宣言の解除を受けて、外出の意欲は上昇している。
美容室（店員）	・緊急事態宣言が解除され、来客数が増加している。
一般小売店〔野菜〕 （店長）	・飲食店やゴルフ場の取引先が多いが、飲食店関係は緊急事態宣言の解除から間もないため、様子見で少しずつしか動いておらず、まだまだ本格的な回復は見られない。
百貨店（売場主任）	・今月は売上目標が未達で、前年比でも微減の見通しである。緊急事態宣言が解除され、来客数は少しずつ戻りつつあるものの、月前半は気温が高く、アパレルを中心に秋物商材が不調に終わった。月後半は秋物商材の動きが回復したが、これまでの減少を取り戻す勢いはない。リベンジ消費に期待を掛けているが、動いているのは限られた商品のみである。
百貨店（企画担当）	・緊急事態宣言解除後の10月の売上は、前月に緊急事態宣言が解除された7月に近い動きとなっている。8～9月と比べると大幅な改善傾向がみられる。
百貨店（販売推進担当）	・緊急事態宣言が解除されたが、Go Toキャンペーンなどの施策もなく、回復の動きは非常に緩やかである。

変わらない

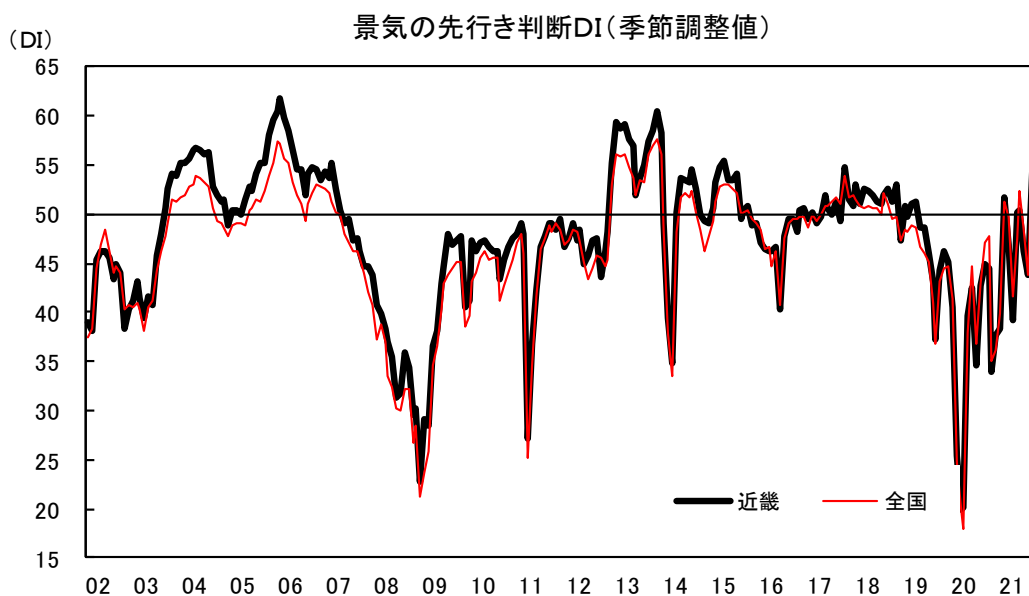
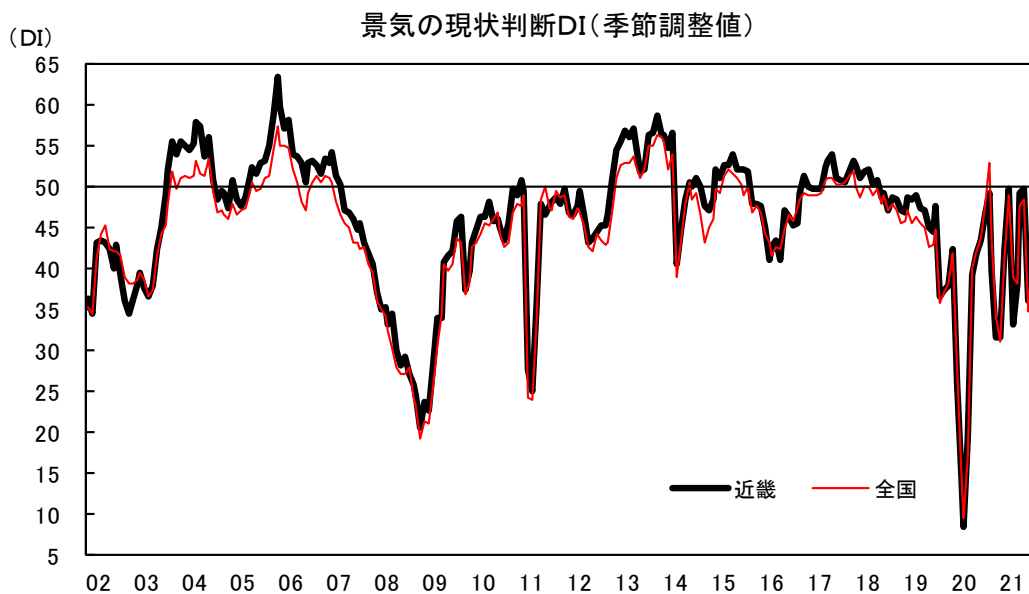
家計動向関連

変わらない	百貨店（商品担当）	・10月に入って緊急事態宣言が一斉に解除され、対象外であったエリアも含めて、来客数が増加している。ただし、消費税増税の影響で不調であった2年前の実績には届かず、着実な回復とはいえない。売上も前年の水準は上回りつつあるが、目標には届いていないなど、購買行動も戻ったとはいえない。
	スーパー（経営者）	・緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルスの新規感染者数の急減で、着実に来客数が戻ってきている。原材料高による商品の値上げはあるが、買い控えはなく、客単価も改善傾向にある。
	スーパー（経営者担当）	・緊急事態宣言が解除されて外出が増え、外食需要も増加しているが、売上に大きな変動はない。巣籠り消費の動きは、すぐには変わらない。
	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言は解除となったが、企業の在宅勤務やリモートワークは定着している。若干の改善はみられるものの、日中の労働人口は相変わらず低い水準で推移している。
	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言も解除され、場所によっては人の動きが増えたが、店の売上に直接反映されていない。分野によっては、緊急事態宣言の解除が売上の増加につながるが、実感としては店舗の様子に余り変化がない。
	家電量販店（店員）	・緊急事態宣言下の3か月は家電の売行きが悪く、解除後の見通しも立たない。人の流れは増えた印象であるが、来客数の増加はみられず、今後も当面は変わらない。
	その他専門店〔スポーツ用品〕（経営者担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、飲食業の来客数は元の水準には戻らない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生や、新規感染者数の増加を心配する人も多いため、景気の底上げには到底結び付かない。
	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているが、緊急事態宣言の解除を待段階では、まだ客足に変化はない。
	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・緊急事態宣言の解除により、景気の回復が期待されるが、まだ来客数の増加にはつながっていない。それに伴い、販売量の増加もみられない。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者担当）	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少によって人流が増え、週末を中心にガソリン販売量は増加傾向にある。その一方、このところの原油価格の高騰もあり、景気が良い方向に向かっているとは言い難い。
	旅行代理店（支店長）	・緊急事態宣言が解除され、もう少し旅行の申込みなどに勢いが出るかと期待していたが、まだまだ伸び悩んでいる。客からは、Go To Travelキャンペーンなどの支援策が始まるまでは申込みを控えるといった声もあり、一刻も早い再開が望まれる。
美容室（店長）	・緊急事態宣言が解除され、少し予約が戻ってきているが、動きは弱い。	
やや悪くなっている	スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後は、食品の売上が落ちてきている。
	スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、家庭内での食事に関する特需が徐々に減っている。日持ちのする備蓄商材や米飯、レトルト、乾麺などは販売数量が減少し、総菜も同様に減少している。
	スーパー（販売促進担当）	・緊急事態宣言の解除による外食需要の回復に伴い、コロナ禍で続いていた中食、内食需要の増加に鈍化がみられる。特に、首都圏を中心とした都市部で、その傾向が顕著となっている。
	コンビニ（店長）	・今月は緊急事態宣言が解除されたが、まだ人の流れの変化は感じられない。それ以上にたばこの値上げの影響が大きく、たばこの売上が戻らないため、売上全体に影響が出ている。
悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、会合のほか、友人同士の多人数での外出や会食は自主的な自粛が続いているため、来客数は落ち込んだままである。
	一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、様々な制限はあるものの、今月からは飲食店への来客数が回復すると期待していたが、スタートとしては鈍い。利用者側にも、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に対する不安もあるため、本格的な外食産業の回復にはまだまだ時間が掛かる。

「コスト上昇、部品不足」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	一般小売店〔呉服〕(店員)	・客の心理としては、新型コロナウイルスへの恐怖感はまだあるが、ワクチンの接種により、少し動き回ってもよいという気持ちが出てきている。来客数が戻りつつあり、買物も少し楽しんでもらえるようになってきている。
	変わらない	百貨店(商品担当)	・与党の総裁選や衆議院選挙によって景気が刺激され、ある程度の回復が見込まれる。また、緊急事態宣言の解除や、ワクチン接種の進展も追い風となり、1年半続いた経済の停滞は、活性化の方向に変化すると予想される。ただし、足元の企業業績は大変厳しく、冬のボーナス支給は低調となる見込みのため、一気に復活する期待は薄い。
		百貨店(外商担当)	・11月末までには、ワクチンが希望者に完全に行き渡る予定であるほか、治療薬も年内に完成する可能性があるため、今よりも新型コロナウイルスの感染は落ち着き、消費マインドも上昇すると予想される。
		百貨店(売場マネージャー)	・ワクチン接種が進むほか、一時的にでもペントアップ需要が見込まれると予想している。
	やや悪くなる	百貨店(売場マネージャー)	・ワクチン接種率の上昇のほか、9月20日頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向となったことで、来客数は増加している。また、緊急事態宣言も9月30日で解除となり、当分は人流が増加することから、売上の増加が期待できる。
		百貨店(服飾品担当)	・ワクチン接種率の上昇に伴い、来客数は増えており、客の消費マインドも上昇が続くと予想される。ただし、新型コロナウイルス発生前の動きに戻るのには半分、残りの半分は、新しい生活様式をそのまま続けると考えられる。リアルな売場の役割がショールーム化するとも予測され、今後は買物体験の価値をいかに提供できるかが問われる。
		百貨店(マネージャー)	・緊急事態宣言の解除や、ワクチンの2回接種者の増加による行動制限の緩和などで、人流が戻ってくるため、経済活動が再び活発化すると予想している。
		スーパー(店長)	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むなか、今後は政府の経済活性化策も出てくる。消費者はこれまで動きを抑制してきたが、旅行や行楽、イベントなどで一気に外出機会が増え、消費の拡大につながる。
		コンビニ(経営者)	・9月末に緊急事態宣言が終了する予定で、ワクチン接種率も70%に達する予定である。テレワークも少なくなり、現状よりもビジネス街の人流も25%ほど増えるため、販売の増加につながる。
	悪くなる	衣料品専門店(販売担当)	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むことで、徐々に景気も回復する。
企業動向関連	変わらない	その他小売〔インターネット通販〕(企画担当)	・新型コロナウイルスの感染第6波への懸念はあるものの、ワクチン接種済み人口の増加で、重症化リスクが軽減されつつあるなど、ウイルスと共存可能な環境が次第に整ってくる。
		高級レストラン(企画)	・ワクチン接種の進行や、地域の観光支援事業、Go Toキャンペーンの再開により、利用者数の増加が見込まれる。
		一般レストラン(企画)	・緊急事態宣言の解除により、営業時間が延長し、アルコールの販売も解禁されることで、現状よりも改善すると予想される。また、ワクチン接種の推進などによる経済活動の活性化にも期待している。
		観光型ホテル(客室担当)	・ワクチン接種率が上がっているため、先行きは少し良くなる。
	やや悪くなる	都市型ホテル(総務担当)	・ワクチン接種が進んでいるほか、新型コロナウイルスの感染に対する治療方法も多様化している。
		通信会社(社員)	・ワクチン接種率も上昇しており、今までの混とんとした状況での、ネットサービスの需要増加という傾向が変わりつつある。社会情勢の改善に伴い、申込件数が増加することを期待している。
		通信会社(企画担当)	・ワクチンの接種や治療薬の開発、緊急事態宣言の解除により、景気が回復するタイミングを迎える。
悪くなる	観光名所(経理担当)	・希望者へのワクチン接種が完了に近づいていることで、様々な点で制限緩和の動きが広がっている。一方、緊急事態宣言の回数が増えるたびに、それを守る人が減ってきている。ワクチン接種が終われば大丈夫という考えの人もいるため、たとえ緊急事態宣言が再び発出されても、人流が今よりも減ることはないと予想される。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		19年					20年					21年														
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現 状 判 断	近畿	36.5	37.4	38.0	42.4	26.1	14.7	8.3	19.6	39.3	42.0	43.4	46.7	49.2	39.9	31.7	31.7	42.4	49.8	33.3	38.2	49.3	49.7	36.2	42.0	52.3
	(全国)	35.9	37.2	38.3	41.9	27.9	14.9	9.4	17.0	40.0	42.2	43.7	47.8	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	39.1	38.1	47.6	48.4	34.7	42.1	55.5
先 行 き 判 断	近畿	44.2	46.1	45.2	40.4	25.3	20.0	20.2	39.6	42.5	34.6	42.8	44.9	44.4	33.9	37.6	38.4	51.6	46.9	39.2	50.1	50.3	46.2	43.9	54.5	55.0
	(全国)	43.1	44.5	44.6	41.4	24.8	19.8	17.9	37.9	44.6	36.7	42.9	47.1	47.7	35.0	36.1	39.9	51.3	49.8	41.7	47.6	52.4	48.4	43.7	56.6	57.5

※季節調整値